International Exchange Center, Nara Women's University
奈良女子大学

国際交流センター NEWSLETTER

Mar. 2016 Vol.42

Inside This Issue

卒業の言葉
留学生より
大学院生の国際学会での発表
マカンナンチ食堂開催
海外協定大学への教員派遣事業報告
センター及び国際課の活動

卒業の言葉

この３月で学部、大学院から合計で23名の留学生が奈良女子大を卒業又は修了されます。

恋しい「奈良女」

鄭　旦丹　大学院人間文化研究科　博士前期課程
言語文化学専攻(中国)

「日本では国立の女子大学はお茶の水女子大学と奈良女子大学の二校だけですよ。」と大学時代の先生が自慢そうに自分の母校奈良女子大学を学生たちに紹介しました。奈良女子大学で、あの先生のネイティブな日本語と日本女性らしい上品な身だしなみを身に付けたと思ったら、クラスの女の子たちはみんなこの大学に憧れました。私もその一人でした。

最初、私は交換留学生として奈良に来ました。その先生の影響で何度も奈良女子大学を見学しに来て、青い空の下に佇んでいる歴史を感じる記念館を眺めながら、もしこの大学に進学できたらどれだけ幸せなことかと思いました。幸いなことに、試験に受かり大学院に入ることができました。

言語文化学専攻を選んだ私は周りに留学生がいなかったので不安を抱えていました。でも日本人の学生たちがみんな優しく接してくれて、日本語の間違いを指摘してくれたり、理解できない授業の内容を丁寧に説明してくれたりしました。日本人に囲まれる環境にいるおかげで日本語が自然と上達し、日本人の考え方や習慣を理解できるようになりました。修士論文を作成するときも、先輩や同級生たちに助けてもらい、とても感謝しています。

勉強と研究以外に、私は積極的に色々なイベントに参加してきました。昼食を済ませた後、食堂帰りに国際課の掲示板を覗くことが私の趣味でした。せっかく日本に来たので、茶道教室や文楽鑑賞といった日本の伝統文化を体験できる貴重な機会を逃したらもったいないと思って、できるだけ参加しました。また、中国人留学生としてもっと日本人に中国のことを知ってもらいたいと思い、スピーチコンテストに三回ぐらい参加しました。このようなイベントを通じて、日本のことはもちろん、自分の国についても認識を深めることができました。日本人や外国人との交流の場を作ってくださった人々に感謝しています。

薬師寺修正会で吉祥娘の奉仕の様子

一留学生として奈良女子大学に二年間半しかいられませんでしたが、「奈良女」での記憶が深く私の心に刻まれています。いつも栄養満点のご飯を作ってくださる食堂の可愛いおばあちゃん達、いつも本の貸し出し手続きをしてくださる真面目な図書館の職員の方達、いつも学校の安全を守ってくださる優しい警備員さん、ただ自分の職場で働いているに過ぎないと思われるかもしれませんが、この人たちのおかげで「奈良女」がいつも通り自分の魅力を放てるのではないでしょうか。「奈良女」にいるすべての職員に感謝しています。

天気が日ごとに春らしくなり、「奈良女」の独特な風景である記念館の写生をするご年配の方の姿も増えていくでしょう。画布に描かれる記念館の姿を想像してしまうと、「奈良女」がまた恋しくなります。

大学院生の国際学会での発表

奈良女子大学国際交流センターは、大学院生の国際的な研究活動の促進を図るため、海外で開催される国際学会で発表する際に必要となる渡航費を支給する支援活動を行っています。平成27年度は、4名の大学院生が選ばれ国際学会で発表しました。内2名から国際学会の様子を投稿して頂きました。

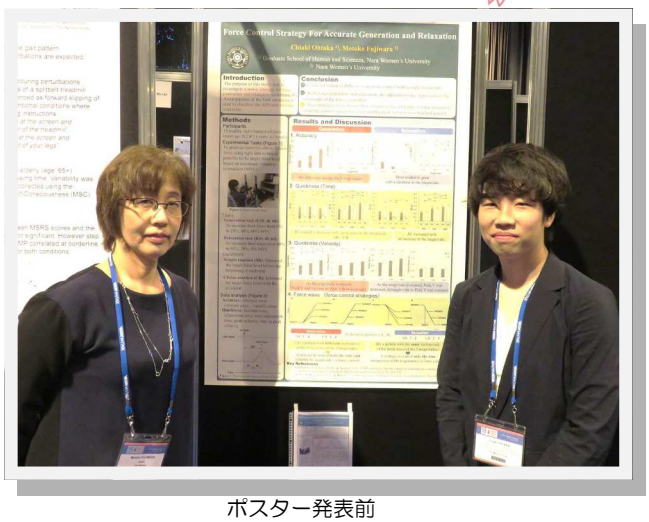
第25回　ISB学会大会

大高　千明　大学院人間文化研究科博士後期課程　社会生活環境学専攻　2回生

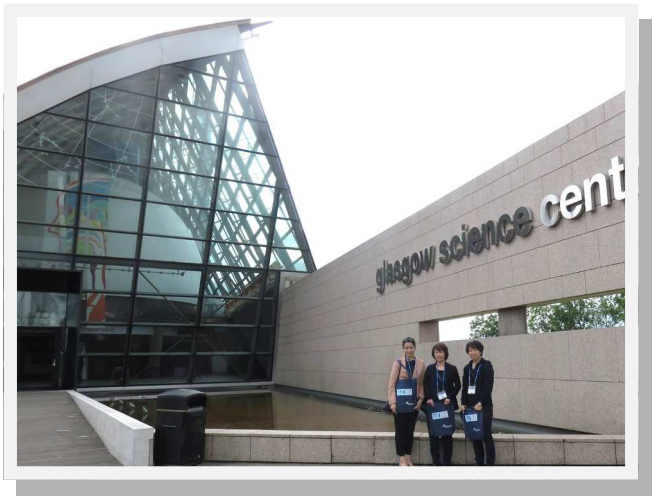
2015年7月12日から16日の5日間、イギリスのグラスゴーにて開催された第25回ISB学会大会に参加しました。ISB学会大会(Congress of the International Society of Biomechanics)は、バイオメカニクスに関する全ての領域において、国際的なレベルでの研究を向上させる目的として、1973年にアメリカのペンシルベニア大学で始まり、隔年で開催されている国際学会です。今回大会の参加国は約100ヶ国、参加者総数は約2000名と、大規模な大会でした。

国内学会と違って、ポスターセッションとコーヒーブレイクが一緒の時間帯に構成されていたことは印象的でした。ポスター前でフランクにディスカッションできるような空間づくりがなされていたように思います。国内学会でも、このような新鋭な試みを積極的に取り入れていくと良いのではないかと感じました。

私は、Force control strategy for accurate generation and relaxationという題目で、ヒトの随意的な力発揮時における力の増加および減少の制御方略について体系的に検討し、正確性や素早さの観点から両者の基礎的な知見を示し出力を減少させることの難しさについて報告しました。



ポスター発表前



会場にて

自身の発表については、学会が企画したヤングアワード（David Winter Young Investigator Award）におけるポスターセッション部門にて、ベスト5に選出していただきました。国際的にも追究すべきテーマであると実感できたとともに、ベスト1になるためには、自分が取り組む研究の興味深さを存分に伝えられるよう、要点を絞ったポスター構成やインパクトのある説明など、さらなる成長が必要であると感じました。また、日本人学生が悠々と英語での口頭発表をこなす姿を目の当たりにし、当たり前に英語で発表できる程度まで自分自身のスタンダードを引き上げることの必要性や、コンスタントに発表を積み重ねていくことの重要性を痛感しました。

私が専門とする領域は、最新技術を用いた機器を駆使しデータを示す研究も多いため、学会会場には多くの企業デモが出店していました。もちろん、最新機器によって今まで不可能であったことが可能になることや、データ処理が簡略化されることなど多くのメリットがありますが、それだけに頼ることなく、適切な手法を用いて未だ明らかにされていない制御メカニズムや現象に迫りたいと思いました。

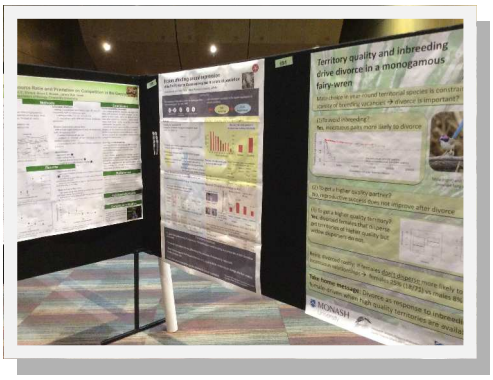
国際学会での研究発表を、研究を深めていくための1つのモチベーターとして、日々真摯に研究テーマと向き合っていきたいと思います。最後になりましたが、今回の学会参加にあたり、手厚い支援をして頂いた国際学術交流奨励事業関係者の皆様、国際学会での研究発表の機会を与えてくださり、サポートしてくださった藤原素子先生、共に国際学会へ挑んだ研究室の仲間へ、心より御礼申し上げます。

Behaviour2015

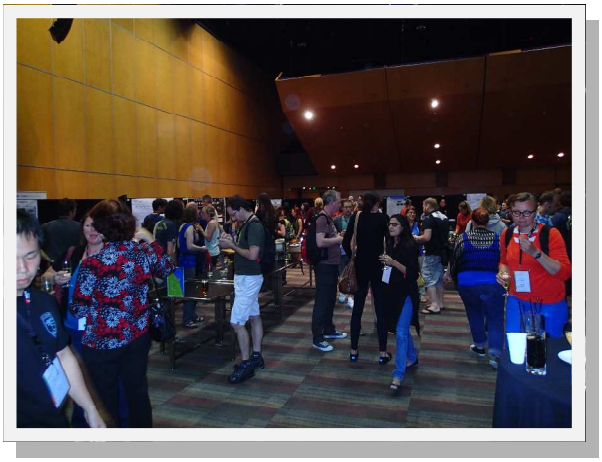
安岡　法子　大学院人間文化研究科博士後期課程
共生自然科学専攻　1回生

2015年8月9日から6日間の日程で，Behaviour2015がオーストラリアのケアンズで開催されました。この学会は34th International Ethological Conference（国際動物行動学会）やAustralasian Society for the Study of Animal Behaviour等の合同大会で，主に動物行動学についての国際大会です。

私はFactors affecting sexual expression in a natural population of the Pacific oyster *Crassostrea gigas*というタイトルでポスター発表を行いました。本研究の目的は，日本に普通に生息するマガキ*C. gigas*を対象として，定期的な野外採集と同一個体の追跡による性転換の観察を行い，野外個体群での性表現の実態を明らかにすることです。その結果、マガキの性表現は可塑的で，すべての個体が決まったサイズで雄から雌に性転換するわけではないことが示唆されました。ポスター発表では，軟体動物の性表現研究で有名なJanet Leonardさん（California-Santa Cruz大学）と知り合うことができました。そして，私の研究について褒めて頂いて，自信になりました。彼女の論文を読んだことがあるので，実際にお話ができて感激しました。



学会発表


会場の様子

口頭発表は分野ごとに様々なセッションに分かれていて，sexual selectionやMatingなど，私の研究分野に近いセッションを主に聴きました。現在の研究のトレンドが知れ，私は普段は視覚のある生き物を扱っていないので，視覚がどのように交尾成功に関わっているかという話が多くて勉強になりました。また，動物行動学の分野では実験動物の保護が強く守られていて，実験動物を殺さないようにするための様々な工夫がなされていました。例えば，オスのクモに交尾相手のメスの姿を見せるためにiPadを使って動画を流したり，鳥類に提示する餌の虫を小麦粉で練って使ったりしていたのが印象的でした。

参加国数は約40か国，参加者数は約900人と，今までで私が参加した学会の中で一番規模の大きな学会でした。したがって，様々な国の人と出会うことができ，同世代の参加者も多かったので，発表を聞くことで刺激になりました。今後はこの経験を生かし，研究をもっと頑張っていきたいです。そして2年後にポルトガルで開催されるBehaviour2017にも是非参加したいと思っています。

マカンナンチ食堂開催

Makan An Chi　はインドネシア語、ベトナム語、中国語の「食べる」という意味です。

キャリアデザイン科目国際グループワークⅡの締めくくりとして、International Food Party「マカンナンチ食堂」を開催しました。このFood Partyでは、国際グループワークを履修していたメンバーが主となり、日本人学生と留学生が協力し合い、日本(お雑煮、栗きんとん)、インドネシア(ナシゴレン、テンペ)、ベトナムの料理(春巻き)を作って食べました。

当日は20名以上の学生が参加し、寒い中、プラザでコンロを使用し調理を行いました。予想以上に時間は掛かったものの、調理の間から食事まで学生同士は互いの国の食文化についてなど、交流を深めることが出来ました。

調理中の様子

春巻きを巻く様子

海外協定大学への教員派遣事業報告

国際交流センターでは、教育交流の促進を目的に海外協定大学に教員、学生を定期的に派遣しています。今年度も3校の大学に教員、学生を派遣しました。教員派遣事業に同行した学生からの報告をどうぞ。

南京大学

近藤　香月　文学部人文社会学科　4回生

私は12月15日～19日の間、小山俊輔先生の南京大学での集中講義に同行した。3日間の講義は、日中両学生にとって大変新鮮なものだった。「日本人と動物」「日本人と旅」といったテーマで、教科書には出てこない日本人の昔からの考え方、習慣、その時々の文化・経済システムと関連させて動物や旅を考える貴重な機会となった。南京大学学生にとっては、「可愛（かわいい）」という対象でしかなかった奈良の鹿に「神の使いとしての鹿」という新たな視点を加えられたのではないだろうか。私が3日間で特に印象に残ったのは、旅行会社や鉄道会社ができた歴史的背景だ。江戸時代までは、伊勢参りをする人を世話する専門の役職があった。しかし明治時代に、宗教と観光を分けなければならなくなり、その代わりを担うべく設立されたのが旅行会社だった。今の日本旅行（株）や近鉄（近畿日本鉄道株式会社）がその例である。実際、近鉄は京都・大阪・名古屋という大都市と伊勢を結んでいる。今まで何気なく使っていたものに、当時独特の背景を見出し、大変興味深かった。

3日間の講義の中で、私も学生発表の機会を設けてもらい、奈良女子大学や奈良の紹介などを行った。1日の最後の時間に学生発表を行ったにもかかわらず、誰一人として出て行ったり携帯電話で遊んだりすることなく、真剣に耳を傾けてくれたことから、中国で5本の指に入る名門校の大学院生はやはり違うなと実感したのを覚えている。奈良女の紹介を受けて、来年度から奈良女に留学予定の学生から「留学は不安だったけど、雰囲気や奈良女について知ることができたので少し安心しました」という感想が聞かれた。さらに、東日本大震災のボランティア活動について話した時には、東北にボランティアに行きたいがどうやって申し込めばいいのかと質問があった。日本に来る学生の不安を軽減させられ、東北への思いをつなげられた、この2つの場面で南京に来て良かったと改めて感じた。

滞在中、日本語学科の先生達と餃子を作成

小山先生講義風景

授業の感想はここまでとしたい。残りの1/2ほどのスペースで南京や中国に対する私の思いを書きたい。南京という都市は私にとって第二の故郷だ。というのも、ここで2年間留学していたからだ。多くの友人と出会い、おいしいものを食べ、旅行をし…「南京」について正負、たくさんの思いと思い出があり、全部ひっくるめて大好きな場所である。今回、教員派遣に同行し南京を再度訪れ、より一層南京や中国が好きになった。中国では人と人との距離が近く、他人であっても“一家人”と考えるアットホームさがある、私はそんな中国にほれ込んでいる。今回の滞在期間が年末に近かったこともあり、南京大学外国語学部の教職員忘年会に参加させてもらった。その際、日本語学科主任や他学科の教授・講師、退職した教授、その家族までもが忘年会に招待されていた上に、数人で一緒になって餃子を作っていたのだ。それだけではない、南京大学で勤続20周年、今年60歳になる教授、年男年女など記念日を迎える先生方が指名されて前に出て、数人で1つのケーキのろうそくを吹き消していた。申年だからということで、小山先生だけでなく学生の私までも、指名されてしまうノリの良さだ。このアットホームな雰囲気は規模の小さい奈良女と共通しているが、中国では規模が大きかろうとやってしまう。この無茶ぶりもどうにかして通してしまう強引さを嫌う日本人が多いのかもしれないが、私は大陸らしいマンパワーが感じられるため、中国が好きな理由の一つである。近所づきあいの薄れ、無縁社会、孤独死、そんな悲しい言葉が紙面を飾る日本にはない、新興国だからこその元気さかもしれない。

中国は今経済的に発展している最中である。2010年に中国のGDPは日本を抜いて2位に躍り出た。しかし、どれだけ発展したとしても、この考え方や雰囲気だけは忘れてほしくないと今回の滞在を通して改めて感じた。

ベトナム国家大学ハノイ人文社会科

鈴木　小春　大学院人間文化研究科博士後期課程
比較文化学専攻　1回生

2015年12月14日～19日まで、ベトナム国家大学ハノイ校人文社会科学大学東洋学部日本学科に派遣され、鈴木広光先生の集中講義の補助ならびに学生交流会の運営、奈良女子大学の紹介を行ってきました。

参加学生は2回生～4回生と幅広く、日本語能力にかなりの差があったため、適宜奈良女のOGでいらっしゃるGiang先生、Ha先生にベトナム語で解説を加えてもらいながら授業が進められました。また、他の授業との兼ね合いで毎日受講者の顔ぶれや人数が違ったため、その都度学生さん達の希望を聞きながら、柔軟に授業内容が決められました。主に日本語のオノマトペと敬語について、実例を交えて背景やシステムといったところから丁寧に解説され、私は日本語母語話者としての運用の感覚を述べるなどして補助しました。特に、将来日本やベトナムにある日本企業の職場で働きたいと考えている学生さん達にとって、敬語を分かりやすく整理して説明されたのは大変刺激的だったようで、授業中意見が飛び交い、休み時間にも質問をする学生さんがいたのが印象的でした。

17日には授業後に学生交流会が行われ、そこでは私が書道を教えました。はじめに書道の歴史や道具の名前、使い方を説明し、つづいてあらかじめ用意しておいた「永」字のお手本を配り、私が実際に書いて見せたり学生さんの筆を一緒に持ったりして練習しました。「永」字を選んだ理由は、楷書を書く際使用する全ての技法が入っており、初心者の練習に適しているためです。「永」字に慣れた頃に各々の好きな文字を教えてもらい、私の方でお手本を書いて、それを練習して清書することにしました。練習では白い半紙を用いたのですが、記念に残るように本番では淡い桃色や若草色の地に、金箔や植物の柄が施された美しい料紙を用意し、好きな物を選んでもらうことにしました。

書道の講義の後で

私は幼稚園から書道をしていたのですが、人に教えるのは今回が初めてで、はじめどのように教えるべきか悩み、盛り上がるか不安でしたが、口頭説明しながら実際に書いたり、一緒に筆を持って書いたりするうちに次第に打ち解けて、最後にはみなさん笑顔で自分の書いた料紙を私に持ってきて「どうですか？」「頑張りました！」と嬉しそうに言ってくれたので良かったです。書道は単に字をきれいに書くというものではなく、背筋が自然と伸びるような程よい緊張感、墨の独特の匂い、筆が紙の上を滑る音、字と紙の一体感など、あらゆる器官を使って全身で楽しむものであることを、少しでも伝えられたかと思います。

そして最終講義の後には、パワーポイントを使って奈良女子大学の紹介を行いました。みなさん熱心に聞いてくれ、何人か興味を持ってホームページのアドレスをメモしていたので、嬉しく思いました。これを機に少しでも日本への留学、なかでも奈良女子大学への興味を持っていただけたなら幸いです。

ハノイ貿易大学

鈴木　ひかる　理学部数物科学科　2回生

夏季ベトナム研修で、初めてのベトナムを体験してから約３か月後、再びベトナムの首都、ハノイへ行く機会をいただきました。今回は、ハノイ貿易大学（以下、FTU）で授業を行う武藤康弘教授のサポートに加え、自身で作成したプレゼンテーションを行うという役割を任ぜられてのベトナム訪問、「わかりやすい資料を作れているだろうか」「FTUのみんなに、興味を持ってもらうためにはどうしたらよいだろうか」と、出発前はもちろん、行きの飛行機の中もずっと考えていました。初めての土地への期待と不安、知的好奇心で一杯だった前回のベトナム研修のときとは、また違った緊張感がありました。私のプレゼンテーションは、①奈良女子大学の紹介、②私の大学生活と、日本の大学生の特徴、③東日本大震災とその後の東北の３つをテーマにしていました。

①は、奈良女子大学の歴史から、現在の学部学科の構成や、留学制度の説明までを図や表、大学の資料を用いて行いました。②は日本の大学生の特徴を知ってもらうと同時に、日本で学んでみたいと思ってもらえるよう、私が大学の授業で、数学を解いて発表しているところや、課外活動として行っている箏の演奏、科学教育を行うアルバイトで活動している様子などを、写真で見てもらいながら行いました。③は、震災における私の経験をふまえながら、原発事故を含む、東日本大震災がもたらした影響と、その後の被災地の現状を説明し、写真や映像を使いながら、プラスの面マイナスの面、両方を伝えられるよう工夫しました。

正直、パソコンの不具合や、操作ミスもあり、とても上手とは言えないプレゼンでしたが、日本語学科の学生さんたちは、真剣に授業に参加してくれて、「もっと知りたい部分があるから、スライド内で紹介していたURLを送ってほしい」と言ってくれた人もいました。海外の大学でプレゼンを行うという、初めてのミッションでしたが、奈良女子大で学ぶ学生として、現代の日本に生きる大学生として、また、東北で生まれ育った一人の人間として―「私だからできるプレゼン」が、できたのではないかと思います。反省点としては、もっと時間配分を考え、より自由に意見交換ができるような質問タイムを作るべきだったと考えます。そうすれば、より多くの人と話ができたのではないかと思います。

講義中の様子

プレゼンの様子

サポートさせていただいた、派遣教員である武藤先生の講義は、日本の伝統文化と現代文化の紹介、最新の経済の話など、写真や映像を用いた、わかりやすく大変興味深いものでした。私自身、日本について知らないことがたくさんあることに気づかされ、FTUの学生と一緒にメモを取りながら日本について勉強しました。また、ベトナム人から見た日本の姿というのも、FTUの人たちの反応から直接知ることができ、自分の発表以外の時間でも、本当に多くの学びがありました。

FTUでの滞在時間はあっという間で、「もっと学生と話したい！」「もっと、ベトナムの大学生活を知りたい！」という気持ちが残りました。今回の経験と、つながりを生かして、今後の、ハノイ貿易大学と奈良女子大学の学生間の交流の架け橋になれたらよいなと思っています。

帰国留学生懇談会を開催

年に2回、海外協定大学から交換留学生を受け入れています。この3月で帰国する留学生を対象に懇談会を開催しました。

1月26日（火）帰国留学生懇談会が国際交流センター主催で行われました。帰国予定者6名が全員参加し、奈良女子大学で過ごした留学生活を振り返りました。この留学で日本語はもとより、日本文化にも溶け込み大きく成長した姿が窺えました。帰国後は出身大学を卒業し就職活動をする学生や、また日本に戻ってくることを予定している学生など、奈良女子大学での留学生活をもとに、それぞれの道に進んでいきます。

恩師を囲んで

■ 帰国留学生6名

Pham Thi Van Anh/ ベトナム / ハノイ貿易大学
Tran Ngoc Anh/ ベトナム / ハノイ大学
Giang Thi Mi Hao/ ベトナム / ハノイ大学
黄　竹筠/ 台湾　/ 東海大学
呂　亞靜/ 台湾　/ 東海大学
羅　稀文/ 中国　/ 西安工程大学

センター及び国際課の活動

2016/1/22	ニュージーランド研修説明会第5回
2016/1/27	帰国留学生懇談会
2016/1/29	ルーヴェン大学 ダブルディグリープログラム説明会
2016/2/9	マカンナンチ食堂 International Food Party
2016/2/16	ニュージーランド研修最終説明会＆ TOEFL-ITPテスト
2016/2/19	ニュージーランド研修出発
2016/3/18	ニュージーランド研修帰国
2016/3/23	ニュージーランド研修参加者 TOEFL-ITPテスト

奈良女子大学　国際交流センター

NEWSLETTER Vol.42　2016年3月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL: 0742-20-3736
Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp
http://www.nara-wu.ac.jp/iec/index/